

【ねがいはましては】

令和5年9月1日

KYOWA SCHOOL

第397号

「生きる意味」

先日、茨城県阿見町にある「予科練平和祈念館」に行ってきました。今から約80年前、太平洋戦争中に自らの命をお国のためにと果敢に散っていった少年兵たちの記録が残されていました。その展示館の一室に少年たちの書き残した家族あての手紙が多数展示されていました。その中の一冊を開くと、右側には実際の手紙のコピーが、左側にはその手紙を活字に打ち直ししたものが貼られています。私を感じたこと。皆、文字がきれいなのです。母親あてのものが圧倒的に多いのですが、「母に汚い字など見せられない」「母にここまできれいに字が書けるようになったことを伝えたい。

自分の思いを正確に、そして丁寧に、一文字一文字こころを込めて書いています。「いつ届くのかなあ」「返事はいつくるのかなあ」と、毎日をただそれだけが楽しみで過ごしている情景が伝わってきます。「生きようとする力」が伝わってきます。特攻で、これが最後の手紙になることがわかりながら母宛てに書いた手紙……。それを受け取り何度も読み返す母の姿を想像すると、私はそこに長く座ってられない感情につつまれました。恥ずかしい限りです。80年前に繰り広げられた「現実」がそこにはありました。生きるってどういうことなのだろう。親子って、家族って……。

「死」を現実のものとして眼前に置き、「予科練」という学び舎で繰り広げられる少年たちの生活を、写真と映像、手紙等で感じ取ることができました。戦争とは、特攻とは、なぜ日本はそのような道をたどらざるを得なかったのか。国って何なのか。是非、皆さんにも行っていただきたいところだと感じました。

さて、現代です。親子間による直筆での手紙のやりとりなど、おそらく「皆無」に等しいのではないのでしょうか。「おなかへった?」「うん」「なにたべたい」「ハンバーグ」「わかった」……。スマホ上に繰り広げられるラインでの簡単なやり取り……。

今、子どもたちの読解力ならびに表現力がかなり落ち込んでいるそうです。子どもたちにとって、読解力や表現力は「成績」の一部と化しています。つまり文章を読むことや書くことは、すべて成績につながるものだと決めている子がほとんどだと思われます。そこに隠れる感情です。「合えばよい」「注意されていなければ良い」などです。具体的に申しますと、漢字テストでは、どんなに他人が「きたない」と評しても、学校のテストで「まる」がついていれば、その「字」でよいのです。「このまえ、この字でまるだったからこれからもこれで行こう」になります。表現に関しては、「原稿用紙2枚以上書いてください」と言われれば、同じ表現を何度もくりかえし書き込み、何とか文字数を稼ぎ、2枚のノルマをクリアしようとする。その向こうには一つの「たくらみ」が隠されています。「何とか楽に終えたい。しかもしっかりやっているなど見えるようにしたい」です。

先ほどの予科練で拝見した手紙……。いったい……。比較するのは予科練生に失礼です……。

今の子どもたちが置かれている現実……。毎日がただボーっと過ぎていく。その日その日が楽であればよい。周りの子がやっていることをマネしながら生活すると、さらに楽ですねー。手をあげる……。面倒くさい。テスト……。わからなくても何か適当に書いておけばひよっとしたら合うかもしれない……。選択問題だ、ヤッター、「どれにしようかな、かみさまのいうとおり」……。これにしよう。で、毎日が流れていきます。それでも学校へは行っていることになります。卒業だってできます。中学へ入ると「順位」です。「あー、やだなー。楽に成績を上げてくれる塾はないかなー」

すべてが「楽」優先です。中にはそのような心境になれない子もいます。そのようなお子さんこそ、「学校って何なのだろう。こんな感じでただ漠然と時間が過ぎていくだけの人生……。意味あるのかなー」と真剣に悩みます。

行く。座る。聞く。ペンを走らせる。食べる。しゃべる。また聞く。ペンを走らせる……。私ってボクって誰?

いったい何がしたいのだろう。自分の将来、いったい何が待っているのだろう。周りや先輩たちを見ていると、合格したとか落ちたとか……。どっちへ転がっても入学したらすぐさま塾へ行かされる? 自分の時間がほしいなー、でも、何がしたいのかわからない……。

私は思います。真の学びを小学1年生当時からじっくりと伝える必要性です。子どもたちは1年生から「テスト」をします。そして「100点」という「合うことが良いこと」というひとつの定義を身につけます。誰にも言われてはいないのですが、そのような心理へと成長していきます。そのお手伝い役として「ご家族」がいらっしやいます。具体的には「なにこれ、こんなやさしいところでまちがえて、あんたバカじゃないの」これを聞いた子は、バツは悪いことだと認識します。結果マルは良いことになります。(私はテストはいらないものだと思っています。)

なんと関係が稚拙なことか……。情けなくなります。

先に掲げました「予科練」……。明治期以降、日本は富国強兵政策により若年層の早期技術習得を目的に、満14歳半から17歳を対象に航空機搭乗員の募集を始めました。最高倍率は73倍にまで達したそうです。その少年たちは最終的に特攻隊員として戦地へ赴くことになりました。その学校が霞ヶ浦の阿見町にあったのです。現在でも陸上自衛隊の基地として現存しています。

時代は全く違いますが、生きるということの意味を学ぶ良い機会をいただきました。 学校って……?